

2月28日、アメリカとイスラエルはイランに対する軍事攻撃に踏み込みました。これにより数千人のイランの市民が虐殺されています。日本の高市政府は、この軍事攻撃を支持する立場にたちイランへの自衛隊派遣を狙っています。

高市は3月19日の日米首脳会談で、「世界中に平和と繁栄をもたらせるのはドナルドだけだ」と発言しました。アメリカ・イスラエルによってパレスチナ・イラン人民が虐殺され、戦争が続いてる中でこのような発言は絶対に許せません。

高市政府は、トランプに徹底的に追従し、日米安保を強化しイラン・中東、中国に対する戦争に突き進もうとしています。さらに、今国会において「国旗損壊罪」を制定し天皇や「日の丸」に忠誠を誓わない者に対し弾圧しようとしています。また早期の改憲を主張し、天皇元首化を狙っています。

昨年10月に来日したトランプと会見した天皇ナルヒトは、「日米の友好関係をさらに強化することを期待する」と述べ、率先して日米同盟を強化しようと主張しました。昨年、ナルヒト一家が「慰霊の旅」と称して沖縄・広島・長崎・硫黄島を訪問した際、先の侵略戦争や沖縄戦・原爆投下への反省を一ミリも見せませんでした。日本における社会構造の中で事実上の君主として天皇は「神聖ニシテ侵スベカラズ」の存在であると押し出しながら、天皇自らが戦争突撃を推進しているのです。

こうした天皇制を頂点にした戦争突撃と動員の中で、4月29日に「昭和100年記念式典」が政府主催で強行されようとしています。この日は、昭和天皇ヒロヒトの誕生日で「昭和の日」とされている日です。式典では先の「昭和」における中国・朝鮮・アジアへの侵略戦争・虐殺にたいする反省はなく、「正義の戦争」と肯定し天皇制を賛美することが狙われています。

これに高市以下政府閣僚が出席しようとしています。政府主催のこの式典こそ日本が戦争とファシズムへの道をひた走り対中国への戦争に突き進もうとする為のものに他なりません。このような式典を阻止するために闘いましょう

いまこそ反天皇を据えた反戦の闘いが求められています。国会前を中心に多くの人民が反戦の声をあげています。いまこそ反天皇の声を戦争反対の声と一体のものとしてあげるべき時です。

戦争反対の闘いはまさに天皇制を打ち倒す闘いです。天皇制を賛美し先の侵略戦争を肯定する「昭和100年記念式典」を粉碎しましょう。4月29日、錦華公園から式典会場・武道館に向けたデモに結集しよう。